

西南学院大学

図書館報

第20号

昭和37年10月15日発行

発行所 福岡市西新町798 電☎0031

西南学院大学図書館

発行人 山下和夫

大学図書館における
視聴覚資料について

中 村 弘

近代教育における、方法論的補助手段としての視聴覚資料の重要視について今更強調する必要はないが、大学教育の中の視聴覚資料の整備および利用について、1つの点を指摘する必要があると思う。

戦後昭和25、6年頃から、大学における視聴覚資料の利用が、次第に行なわれて来たように見られるが、当初は、初等教育、中等教育に見られるものとそう大差は無いようであった。しかし思想的に可成りに成熟した大学学生を対象とする場合にあっては、自からその方法は異ならなければならない。認識過程の未発達の段階にある幼児や、少年少女は、主として感覚、知覚によらねば、事柄の認識は不可能である。すなわち直接経験の道程において教育が進められることは、好ましいことである。しかし、抽象、推理、思考、象徴という高級認識力を持つ大学生にあって、幼児と同様の視聴覚的資料の利用は、かえって彼等の認識、理解を原始的方法に逆もどりさせることになるであろう。

一体に感覚、知覚にたよる認識は、確実な経験と客観性においては、それ以後に発達して来る高級思考に比べて、はるかにすぐれている。従って幼児にあっては是非この方法によって行くことが望ましい。しかし表象や想像や思考や推理の認識にあっては、主観的であり認識の不明瞭化はあるものの、自己創造性、獨創性、意志の自由という諸点にあっては、すぐれた性質を示している。

大学教育が真理の奥底に徹し、自己創造による人格の向上を目標としている以上、われわれの認識を逆もどりさせるような仕方は早急に停止すべきであろう。少なくともそのような見方で大学生に資料を提供することは無益である。それは何処までも一般的教育の行きとどかぬ点の補助として望ましい。例えば外国語教育で、日本人教師の到達困難な発音の生々しい実状を体得させる意味ではこの利用は大きな効果をあげるであろう。

このように考えて来ると、問題はこの資料を如何に使用するかについての教育がより大切なものとなる。換言すれば、設備された資料提供の時間的、場所的適切さというものが問題となるであろう。

大学図書館はこの意味での資料の設備を持つべきである

うが、例えば事務室、資料室、映写室、整理室、目録室、個人又は少人数利用の小室等慎重に考慮されねばならぬが、前述の教育方法上の問題からすれば、事はそれだけでなく、教育者と図書館の間、又事務局との間の有機的連絡が望まれる。

大学図書館の理想からすれば、もうこれでよいということはないけれども、前述の大学における教育と学生の関係からすれば、16ミリ発声映写機および撮影機(8ミリのものは不適)、スライド映写機(レンズ口径大で焦点距離100ミリより大きいもの)、スライドフィルム、その自作材料一式、録音機および録音テープ(据置型、ポータブルなど)、レコードおよび高級プレーヤー、マイクロスコープ等は是非最少限として要求されるのではあるまいか。

(本学文学部教授)

告知板

- 卒論特別貸出中 4年次の学生には、卒論作成のための特別貸出を実施中です。冊数は3冊以内、期間は1か月間です。
- 卒業論文の製本代について 卒業論文は製本された上で図書館に保管されることとなります。そこでその提出にあたっては、製本代金を経理課に納入し、その領收書をそえて教務課に提出して下さい。製本代金は決定次第お知らせします。昨年度では商学部学生は一人120円、英文学科学学生は一人40円でした。
- 複写サービス料金の改正 さる7月1日から複写装置利用規則の一部が改正され、その利用料金が約2割値上げされました。これは、今までの料金が全く原価どおりでしたのを、複写ロスその他の止むをえない経費が約2割かかることが判明したために、それを含めた料金に改訂したものです。
- 波多野培根先生記念日の11月7日は、波多野記念文庫目録を配布します。これは同先生が学院に遺された2千冊の記念すべき文庫のリストです。

その 1

図書館活用のための

辞書・事典の豆知識

百科事典・人名録・年鑑・索引

及び官公庁主要職員一覧、国会議員、人名録、会社要覧、団体要覧、大学一覧、地方要覧、各種統計からなっている。

時事年鑑 昭和37年版 時事通信社 昭和36年刊(昭和22年創刊) 朝日年鑑が簡潔すぎ、説明の欲しい場合に役立つ。

毎日年鑑 昭和37年版 毎日新聞社 昭和36年刊(大正8年創刊)

内容は朝日と似ているが、人名録は他の年鑑より詳しい。

日本現勢 昭和37年版 共同通信社 昭和37年刊(昭和27年創刊)

日本関係専門の年鑑で、別冊に「全国観光案内」がついている。

世界年鑑 昭和37年版 共同通信社(昭和25年創刊)

新中国年鑑 昭和37年版 中国研究所編 昭和37年刊 極東書店(昭和30年創刊)

中国の政治・経済・文化・教育・体育などの諸事情を分析紹介したもの。

ソヴィエト年報 昭和35年版 内閣官房内閣調査室編 日刊労働通信社 昭和35年刊

ソ連邦及び東欧ソ連圏諸国の重要事項の統計・ソ連人物小伝・年表等を収録してある。

索引

雑誌記事索引 国立国会図書館 人文科学編 第13巻 1960年1-4号

年4回発行されたものを1冊に製本してある。

本書は国立国会図書館に受け入れられた昭和35年1月より12月までに出版された和雑誌の重要な論文の索引である。

自分の研究しているテーマの関係論文の有無の調査や、論文作成等について一つの文章、語句にも典拠を明かにする必要がある場合など、その利用価値は極めて大きい。

Cumulative Book Index : World list of books in the English language. 1957. より在庫。

これは英語で書かれた図書についての索引であり、著者名および事項について、アルファベット順に混合配列がなされている。ある著者の作品について検索しようとする場合には、その著者名で引けば、そこにはその期間に出版されたその著者の作品が発見できるし、又例えば Shakespeare について書かれた作品について調べようとすればその項にはその期間に出版された諸作品が記されている。

名簿・人名録

岩波西洋人名辞典 篠田英雄編 昭和31年刊

収録人物は旧版(昭和7年刊)よりほぼ1万名増加し約2万5千、その人名は古代から現代まで人類文化に寄与した人物を主とし、それに歴史的意義を有する人物等にわたっている。

人事興信録 第21版 上下2冊 人事興信所編 昭和36年刊

百科辞書 Encyclopedia

世界大百科事典 平凡社 昭和30年-34年 全32巻

約7万の項目からなり、項目は見出語の50音順配列になっていて、末巻は総索引である。現在では一番ヴォリュームのある百科事典である。

百科事典は、その中からあらゆる知識を求めようとするものであるが、この様な大部なものはその編集上の時間のためどうしても古くなりがちであるので、こればかりにたよらず、常に別の新しい専門書と対照して用いる事が大切であろう。

国民百科大辞典 富山房 昭和9年-13年 別巻も含めて全15巻

Encyclopedia Americana. Vol.1-30. 1955.

Encyclopedia Britannica. Vol.1-25. 1959.

Encyclopedia の最も代表的なものである。

これを使う場合、知りたい内容が簡単なものであれば、小項目主義の Americana を、くわしい説明を必要とするのであれば論文形式で書目がついている Britannica をというように目的によって使いわけるとよい。

Everyman's Encyclopedia. Vol.1-12. 1958.

これは家庭向ともいえる手頃な小型のもので、内容が平易でよくまとまっている。(英文閲覧室の藤井文庫の中に蔵してある。)

I See All : The world's picture encyclopedia.

Vol. 1-5. 1961.

は全項目10万、すべてが挿絵入りの、なじみやすい辞書で、英文に弱い人でも楽しみながら調べることができる。

Collier's Encyclopedia. Vol. 1-20. 1957.

Compton's Pictured Encyclopedia. Vol.1-15. 1946.

などもある。

又、ドイツおよびフランスのもので、定評のあるものに

Der Grosse Brockhaus. Band 1-12. 1957.

Larousse. Tome 1-7. 1953.

がある。

年鑑 (一般)

朝日年鑑 昭和37年版 朝日新聞社 昭和37年刊

大正14年に創刊され、もっとも信頼されている年鑑。年表、世界(国際情勢・世界経済・国際機構・各国要覧)、日本(政治・法律・経済・労働・社会)、文化

日本職員録 第9版 人事興信所編 昭和37年刊

内容は、日本国内所在の会社・銀行・各種団体・大学・中央の官公庁等にわたり、その人事・機構職制を中心に編集してある。

世界人名辞典 東洋編・西洋編 東京堂 昭和27年刊

主に歴史的人物を、各編約6千名程度選び50音順に配列してある。

職員録 昭和37年版 大蔵省印刷局編 上下2冊

昭和37年刊

大衆人事録 帝国秘密探偵社編 昭和29—32年刊 3冊

東日本編・西日本編及び東京編の3部よりなる。

全日本紳士録 昭和36年版 人事興信所編 昭和36年刊

The Dictionary of National Biography.

Vol. 1-28.

は現在、英文で書かれている人名辞典のうち最も完全なものであるといわれている。

Who's Who, 1958 は現在生存している人を調べるのによく、

Who was Who. はすでに死亡している人を調べるのによい。

又特殊なものとして、

The Japan Biographical Encyclopedia & Who's Who, 1958.

The Oxford Dictionary of English Christian Names, 1950.

A Dictionary of British Surnames, 1958.

などがある。

ゲッテンゲンをかこむ、今は散歩道になっている古い城壁の一端にある駅から、まっすくに、ゲート通りを、^{カナル}静かな運河と呼ばれる堀割にぶつかった角に、石造のいかめしい国立図書館がありました。NIEDERSACHSISCHE STAATSBIBLIOTHEK ^{スターツ} ^{ビブリオテーク} と黒ずんだ銅板が鈍く光っているこの図書館を学生は U・B (大学図書館) ^{ウーベ} ^{ウニベルジ} と呼んでいましたが、文字通り大学町のこの図書館はそのまま大学の中央図書館でもありました。玄関を入った正面階段のホールの壁一杯のこのニーダーザクセン侯国の古い太公の極彩の類や、後に併わさったらしい裏半分の古い石造の高い中世風の教会堂の書庫など、この図書館の輝かしい歴史を馨らしていましたが、その内部の設備、機構はドイツの学問、大学の姿をうなずかせる深いものでした。欧州大陸でもパリ、ミュンヘンに次ぐものだと学生が威張っていました。カード分類でも、一度賀川豊彦先生が亡くなられた時、ドイツのある雑誌から一文を依頼され、よもやと思いながら主題項目別のカードでカガワのところを開けると、十数種の英独の本、更に多くの雑誌にのった賀川についての論文、賀川の項目のある辞書類がずらりと並んであるにはおどろきました。

みなれぬ小さな日本人の私があちこちカードに首をつっこんで見ていると学生が寄ってきて「文献や研究助言の主事、相談係の部屋はあそこにありますよ」とおせっかいをやいてくれます。堂々たるドクターの相談主事にたずねると、気軽に「ヤーヤー」と先ず書誌辞典や専門辞典でたしかめ、または書きぬいてくれ、カードを繰ってまてくれます。

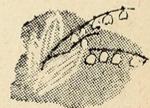
毎学期、学期始めに買う講義便覧 Vorlesungsverzeichnis の初めに、図書館及びその利用法について特殊講義と紹介、実地指導が5、6時間出ています。はじめてその学期この大学に来た殆どの学生はこれにつめかけます。図書館の歴史、蔵書内容から勉強のための利用法、カード説明等を実地に、また映画を使つての講義です。ドイツの大学は毎学期どこに移ってもいいのですし、卒業試験までは学期毎の試験などなく、のんびりしているようですが、ゼミナールを中心として実に徹底的に鍛えます。が、それは中央あるいは学部図書館や研究所図書による自主的な勉強に任せられており、研究指導員ともいべき主事や相談指導員のドクター達が勉強のよき協力者でもあるようでした。

学部図書館などで羨ましい限りのものは、雑誌のバックナンバーで、その主題別分類です。

学生のレポートやゼミの準備はこれが実によく役立っているようでした。古い本で絶版になっているものなどの一部を写真コピーにとるのも簡単に普及しており、私も2、3度頼みましたが、いとも簡単に2、3日すると立派に出来て手渡され、改めて感心したりしたものでした。

ドイツ人は元々公共性について異常な程の責任と誇りを持っている民族ですが、2年間私を包んでくれた閲覧室の異常な静けさは、今もなお私をふっと支えるこよなき記憶の一つです。

(文学部助教授)



随想

ドイツの図書館

のこと

山路 基

大学設置前後の 西南学院図書館

八 田 薫



私が西南学院図書館長を勤めたのは、昭和23年9月1日から翌年8月末日迄の1か年であった。就任当時は、専門学校を大学に昇格させる直前の年だったので、その準備のため、学院の首脳者達は多忙を極めておられた頃である。大学が認可されるためには、教員組織、研究室、図書館等の整備充実が必須条件であった。23年7月に水町院長が勇退されて、ギャロットさんが院長に就任され、永らく図書館長をしておられた坂本教授も、その頃、館長の辞意を表明された。当時は、図書館長について、現在のように教授会が投票によって候補者を選ぶのではなく、また、任期も定めてなかった。そこで私が理事会で選任された訳であるが、当時の日記を読んで見たら、私は就任の条件として、(1)任期を1か年とすること。(2)現在3名の館員を5名に増員すること。(3)図書購入費(当時年額25万円)を更に追加増額することを申し出たところ、何れも承認され、図書購入費の追加予算50万円が与えられたと記してある。

当時の図書館員は一丸章君、高辺文子さん、湯川澄子さんの3人だったと記憶するが、そこで、当時緑ヶ丘高校の教諭をしていた木村秀明君を司書主任として招き、川田礼子さんを館員に加えて5人になったのである。(一丸君と高辺さんは図書館を辞めてから結婚し、数年前夫婦で訪ねて来たことがある。湯川さんもその後結婚するために辞めたのであるが、現在の消息は解らない。木村秀明君は現在県立図書館で資料課長として働いている。川田さんは現在東京に住んでいる。)

当時の図書館は、西南高校の構内の西側にある赤煉瓦の建物が書庫で、その南が閲覧室になっていた。書庫は最初2階であったが、私の在任中に3階ができたのである。私に課せられた第一の仕事は図書を集めることであった。当時、図書館には中学生向けの図書を合わせても2万数千冊位しかなかった。大学図書館としては約5万冊の蔵書が必要だと聞いていた。当時、新制大学になろうとする学校では図書を集めるのに苦労していた時代で、古本屋を廻って歩いても、欲しいと思う本は余り見付からなかった。そこで米国のミッションボードへ、欲しい本のリストを送って現物贈与を受けたりした。また、学生にも図書の寄附を頼んだりしたように記憶している。しかし、短期間にそう集められるものではない。12月頃、文部省の大学設置委員が視察に見えたときは、自然科学関係と商学関係の図書が充分でないといわれたらしい。それでも、大学の設置は認可さ

れて、24年の4月から発足することになった。

他方、購入図書や寄贈図書の整理が大変だった。日本十進分類法を採用することを決めて、ラベルの貼り換えをやったり、また、著者名、分類のカードもつくることにしたので、5名の館員では手不足で、24年の4月から杉本善夫君を加え、また、当時第2部学生であった坂口静一君にも手伝って貰ったと思う。(坂口君は現在福岡工業高校の教諭として働いている。)

それから、図書館の規則を改正したり、図書館委員会をつくらしたりして、一応の整備を終えたのであるが、何しろ、狭い閲覧室で、大学生も中学生も一緒に読書するので時には騒々しく、木村君が屢々閲覧室へ行って注意したりしたものだ。そこで、私は閲覧室や事務室の改造を企図して図面を書いて貰ったりしたのであるが、近い将来に本格的に図書館を建築するというので、その改造はお預けになった。現在の区図書館は5年後の昭和29年に竣工している。私の任期は8月末で終わったので、9月の初めに中沢教授と交替した。

(本学商学部教授)

(学院図書館回顧録その3)

奉仕係より

○昭和36年度館外貸出図書冊数(学生)

| 分類別 | 昭35年度 | 昭36年度 |
|--------|--------|--------|
| 0 総記 | 86 | 170 |
| 1 哲学 | 1,685 | 1,882 |
| 2 歴史 | 254 | 294 |
| 3 社会科学 | 4,849 | 6,163 |
| 4 自然科学 | 558 | 481 |
| 5 工学 | 129 | 119 |
| 6 産業 | 1,173 | 1,419 |
| 7 芸術 | 482 | 630 |
| 8 語学 | 395 | 452 |
| 9 文学 | 4,996 | 4,621 |
| 雑誌 | 512 | 516 |
| 計 | 15,119 | 16,747 |

昭和36年度は前年度に比較して貸出冊数は増加し、ことに専門分野の増加が目立っています。

○昭和36年度入館者数(学生)

| | |
|-----|--------|
| 英文科 | 16,438 |
| 商学部 | 47,110 |
| その他 | 226 |
| 計 | 63,774 |

昭和36年度から学部別に入館統計をとり始めました。その結果は左表のとおりで、英文科学生の利用が学生数のわりに幾らか多いようです。

教職員、特別利用者などを含めると全部で64,798名(前年度は55,735名)となり、書架工事その他で前年度より約20日少なく開館したにもかかわらず、入館者は逆に約9千人も増加していました。